

令和元年度 第2回浦安市いじめ対策調査委員会 会議録

1 開催日時

令和元年10月7日(月) 午後6時00分～

2 開催場所

浦安市役所 4階 会議室S2・S3

3 出席者

(委員)

川義郎委員長、黒川雅子副委員長、稲見憲子委員、金子雅文委員、志摩一美委員  
(教育委員会職員)

鈴木忠吉教育長、白石嘉雄教育総務部部長、大友隆司教育総務部参事、  
醍醐恵二教育総務部次長、河野良江教育総務課課長、宇田川知久教育政策課課長、  
大和利光学務課課長、亀山さゆり保健体育安全課課長、丸山恵美子指導課課長、  
山本典子教育研究センター所長

(事務局)

鈴木勉指導主事、鈴木俊之主任主事、新井裕子主任主事

4 傍聴者

2名

5 議題

- (1) 第1回いじめ対策調査委員会会議録案について
- (2) 令和元年度本市におけるいじめ防止等の取組状況について
- (3) 審議・協議事項(非公開)

6 議事の概要

- (1) 第1回いじめ対策調査委員会会議録案について  
第1回いじめ対策調査委員会会議録案について、事務局から説明した。
- (2) 令和元年度本市におけるいじめ防止等の取組状況について  
令和元年度本市におけるいじめ防止等の取組状況について、事務局から説明した。
- (3) 審議・協議事項(非公開)
- (4) 諸連絡

7 会議経過

議題(1) 第1回いじめ対策調査委員会会議録案について、事務局から説明した。

【委員】会議録案について、何かありますか。

【委員】ないようですので、議題2に進みます。

議題(2) いじめ防止等の取組状況について、事務局から説明した。

【委員】以上の報告に関して何かご質問、ご意見はございますか。

【委員】先ほどのLINEの研修の事例について、危険な発言をする人をはずすということ、子どもにとって合理的な側面もあると思うが、先生方はどう考えているのか。

【事務局】研修では、大人と子どもの感覚の違いについて、驚いている方が多かった。各学校や学級の実態に合わせて、どう指導するかグループディスカッションが活発に行われていた。子ども同士のSNSのトラブルが起きた際に、具体的に大人がど

う指導するかは、大きな課題であるので、今後の研修でも取り上げていきたいと考えている。

【委員】一つ厳しいことを言うと、まだその程度なのかという思いがある。LINEはずしは、もう子ども達の間で実際に行われている。LINEはずしは、いじめである。子どもに合わせた具体的な指導とは、どのようなものなのか、という部分をやっていただかないと、トラブルが起きてからの後手の対応になる。また、研修を受けた方の年齢層はどのようなものだったのか。

【事務局】年齢層は、かなり幅広かった。また、生徒指導担当者や、昨年度から続けて受講した方もいた。

【委員】LINEなどは、年齢が上の先生方が、子どもの頃にはなかったものである。まだ使っていない場合もあるような人に、いくら意見を聞いても案は出てこない。だから、今までの研修とは違い、若い方の意見を率先して拾い上げ、それをベテランの先生方が聞くというような流れが必要である。その中で出てきた「これは使える」という、よい意見を広めていってほしい。

【委員】LINEの研修は、希望研修か、それとも各学校1名など決まっているか。

【事務局】希望研修である。

【委員】全中学校の参加者がいたということだったので、各中学校から希望者がいたということか。希望研修ならば、ベテランの先生方でも、かなりSNSに詳しく、関心も高く、生徒指導で必要だから磨いてみようという方も多かったと思う。

【委員】別の質問をよいか。先ほど、いじめの早期発見のアンケートについて、「あなたはどのような経験がありますか」という本人のことだけではなく、「他者の状況について知っているか」ということも拾いたいという説明があった。しかし、資料9ページから12ページにある教育委員会から学校に提示しているひな型を見ると、自分の経験しか聞かない内容だが、いかがか。別の形式がすでに学校に提供されているのか。

【事務局】説明が不十分で申し訳ない。7ページの形式が教育委員会から出したアンケートのひな型である。8ページ以降は、現在学校で実施しているものの抜粋である。

【委員】では、小学校では、9ページから12ページの形式でアンケートをとっていて、その内容の修正を今、学校にお願いしているということか。

【事務局】そうである。学校に応じて違う形式もあるが、例示という形で載せている。

【委員】理解した。ありがとうございます。

【委員】アンケートの表現がかたいと感じる。

【委員】ただ、あまり項目を増やし過ぎると、子どもの回答が大変になってしまうと思うので、難しい。

【委員】7ページのアンケート1番下の部分。「不安や悩み、どんなことでも気軽に担任やカウンセラーの先生に相談してください」と、わざわざ書かれているのは、どのような意図からか。

【事務局】アンケートについては、各クラスで対応するので、担任が中心に対応するが、相談する窓口がたくさんあることを子ども達に伝えるために入れてある。

【委員】いじめ防止対策推進法には、大人がいじめから子どもを救う、いじめをなくす義務があると明記されている。それを解説した「子ども六法」という本も相当売れ

ている。「大人にはこういう義務があるから、必ず勇気を出して誰かに相談してください、相談して解決しなければ、他の大人に相談してみましよう」と、「必ず大人は何とかしてくれる」という意図を込めて、「次々に相談していきなさい」と投げかけている。教育委員会も、色々な窓口があるという紹介だけでなく、子ども達をもっと相談できるよう、後押しになる言葉があったらよいと思う。

【事務局】今後の参考にさせていただく。

【委員】今の意見について付け加えさせていただきたい。子どもの相談したい相手は様々だと思う。文面で「担任やカウンセラー」と書かれていると、それ以外の先生に相談してはいけないようなニュアンスに感じる。「その他あなたが信頼できる先生は、誰でも話を聞きますよ」という内容が入るとよいと思う。しかも相談相手は、先生でなくてもよい。給食の配膳員や警備員など、色々な大人がいる。「どんな大人でもいいから、あなたが相談しやすい人の力を借りようね」という内容が入っているとよい。

【委員】これらの意見を盛り込めるようなひな型を作ってくださいご紹介いただきたい。

【教育長】貴重な意見をありがたく思う。学校により、低学年はアンケートを家庭に持ち帰らせ、保護者と記入する方法をとっているところもある。また、先ほど相談先の周知、告知の課題が出た。こんな相談窓口があるという記載があってもよいかと思っている。ご意見検討させていただきたい。

【委員】あと、中学校のアンケートには、秘密の厳守について書かれている。小学校でも秘密を守ることを明記すべきでは。

【委員】小学校の形式でも、秘密の厳守についてわかるように示していただきたい。

【委員】アンケートは、書いてもらいやすい形式がとても大事である。こんなに活字の多いアンケートを求める大人に相談できるのか、という不安もある。もう少し、親しみやすい、相談したいと思える工夫を積み上げてほしい。

【委員】他はよろしいか。

【委員】個人的にはLINEにとっても興味がある。データによると、ネットトラブルを経験しやすい人、家庭内ルールがない人など、かなり指導が必要な児童生徒は、1日4時間以上使っている。30分しか使わない人と、6時間以上使っている人に同じ指導をしても効果は上がらない。使用の仕方を分類した上で、その類型に合った指導をした方がトラブルの防止につながると考える。データ自体は参考になると思うので、ぜひ積極的に活用していただきたい。全体に言っても浸透していない中で、例えば6時間以上使う人の半数以上家庭内ルールがないのだから、その人達を集めて、保護者対応を含め、家庭内ルールの重要性を伝えるなどが必要になってくる。上手に活用していただきたい。

議題 (3) 本市における「いじめ」に関する事例について事務局より説明し、協議を行った。

事務局から連絡事項を伝え、閉会。

問い合わせ先 教育総務部指導課 担当 鈴木勉

電話 047-351-1111 (内線) 19216